

論 点 (例)

～ イノベーションに最も適した国になるために～

- 1 . グローバルな競争の中での我が国のイノベーション創出力の現状をどう評価するか。
- 2 . 過去の取組の延長線上に未来があるのか (人事、資金、組織の在り方の持続可能性) あるいは、大きな方針の転換が必要なのか。
(アカデミア、産業界、政府それぞれ)
- 3 . 少子高齢化により総人口が減少する我が国では飛躍的な生産性向上が求められる中、各世代の人材、女性、外国人など幅広い人材登用を可能とする組織の在り方をどう考えるか。
- 4 . 信頼ある自由なデータ流通「 DFFT (Data Free Flow with Trust) 」
のための体制構築が喫緊の課題となる中、日本の優位性を踏まえ、知識集約型社会の中核として大学をどのように使い尽くすべきか。
- 5 . 世界をリードする研究拠点を形成する上で我が国の地政学的な優位性はどこにあるのか。 その上で、大学と産業界はどのような協働のシステム (人事、資金、組織等) を築いていくべきか。
- 6 . 地方の産業、生活、文化の価値を高め、地域発展の原動力となるために、大学は産業界や地方自治体とどのような協働のシステムを築いていくべきか。